

# 総務教育常任委員会資料

(令和8年2月26日)

## 【件名】

- ・ 令和7年度第2回鳥取県総合教育会議の開催結果について (教育総務課) …… 2
- ・ 児童手当支給事務に係るマイナンバー誤登録について (教育人材開発課) …… 14
- ・ 令和新時代の県立高等学校教育実施計画<前期(令和9年4月1日実施分)>  
について (高等学校課) …… 15
- ・ 高等学校教育改革促進基金について (高等学校課) …… 27
- ・ 鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の改訂(案)  
に係るパブリックコメントの実施結果について (図書館) …… 31

教育委員会

## 令和7年度第2回鳥取県総合教育会議の開催結果について

令和8年2月25日  
教育学術課  
教育総務課

令和7年度第2回の鳥取県総合教育会議を開催しましたので、その概要を報告します。

1 日時・場所 令和8年2月19日（木）午前10時から11時30分まで（鳥取県庁 特別会議室）

2 出席者 知事、有識者委員、教育長、教育委員 計13名  
<有識者委員>

氏名	所属	氏名	所属
宇佐美里香	公益財団法人鳥取県スポーツ協会 特任体育指導員	中村 裕子	鳥取大学医学部附属病院脳神経小 児科 助教
織田澤博樹	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学 校・高等学校 校長	山下 誉議	英会話イーオン鳥取校 講師
坂本 哲	アクシス IT パートナーズ株式会社 代表取締役	山本 祐子	鳥取県PTA協議会 会長

### 3 概要

#### (1) 意見交換のテーマ

①鳥取県の「教育に関する大綱」の改訂について **別紙1**

<改訂の概要>

■第一編（令和5年度から8年度までの中期的な取組方針）

高等教育機関と連携した教員養成・確保対策や教職志向性の高い学生への返還金返還助成等の支援策の充実、地域の産業界等と連携し社会変革を見据えた専門性の高度化等による高校教育改革を進めること、いわゆる国の教育無償化に伴う学校給食費負担軽減や高校授業料支援など保護者負担の軽減、情報的健康の取組を推進する旨を盛り込む。

■第二編（第一編に沿った毎年度の重点取組施策、数値目標）

令和8年度の重点取組施策に改訂するとともに、学力向上に係る新たな指標を設定する。

②学力向上について（全国学力・学習状況調査等の結果と今後の取組） **別紙2**

③令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について **別紙3**

④中学校における部活動の地域展開・地域連携について **別紙4**

⑤高等学校教育改革促進基金の創設について **別紙5**

#### (2) 主な意見

<学力向上、理数系人材育成>

- 理工系の体験活動に参加することが理数系への興味関心のきっかけとなり、やがては学力向上につながっていく。高等教育機関との連携やSSHを活用し、小・中学校から理工系分野の体験活動をどんどん増やすような取組ができると良い。
- 高校の英語教員の英検準1級以上の取得率がR6から既に100%を達成し全国一位。一方、英検1級以上の取得率となると下から3番目。鳥取県は公立のIB校もあるため、もう1つ上のステージ（英検1級、CEFR C1レベル以上）を目指すべきではないか。取得率を上げることで県全体の英語力も上がっていく。
- 英語教員の指導力向上について、エキスパート教員による授業でスキルやテクニックを学ぶのも良いが、ALTによる英語の土台、会話力をつけるレッスンを英語教員とできるようなプログラムがあれば、なおさら良い。
- 授業が楽しくないことが不登校の原因になっていることもある。一律の授業で分からなくてつまらない、もっと先に進みたいのに物足りないなど両者ある。進歩しているAIを活用して子どもが個別化・最適化した学びができ、授業が楽しいと思えるような、授業の構成をぜひお願いしたい。
- 子どもたちの多様性を前提にしながら学習方法を自分で学び取っていくこと、学習速度も自分で調整しながら進めていける、学習内容を決定するといういわゆる自己選択とか自己決定ができる学習の環境を用意していかなければならない。
- 専門高校、専門学校の専門性を高度化させていく、強化していくことは本当に必要なこと。せっかく地域に大学があるので、もっと高等教育機関との連携を深めて、一緒に育てるというような体制づくりをやっていけたらいい。

## ＜A I 関係＞

- ・生成AIが驚愕するほど進歩している。このAIが発展してきた変革期と言われる時代の教育現場の対応というのを、今後どのようにするか考えていくことが必要ではないか。
- ・AIにできないことはやはり体験であり、実際に接することが大事。個性的な授業をする先生は本当に魅力的であり、増えていくと良い。

## ＜教員確保関係＞

- ・鳥取県の宝である子どもたちを育ててくれる先生も宝。先生の立場、尊厳を守っていくことも、子どもを守ることに繋がる。
- ・いろいろな場面で、子どもや先生方の孤立を防ぐことが重要。いかに困らない環境、自分の能力が発揮できる環境、そして前向きに自分の仕事に取り組める環境を作るのが大事。

## ＜体力向上、部活動地域展開＞

- ・子どもは、体験を通して感じる部分が多い。見て肌で感じられる体験ができる場を小学生だけでなく、夢や目標を強く持つようになる中学生や高校生にも提供できる環境をぜひ整えていただきたい。
- ・部活動の地域展開に関して、どうしても生活困窮世帯に目が向きがちだが、県全体で子どもたちが部活動で使っているもの、また学校内で使っている道具等に、市町村によって格差がないのか、ぜひ把握してもらいたい。
- ・子どもたちの体力、運動能力が少し上向いてきたのは本当にうれしいこと。部活動の地域展開では、どうしても運動部が中心に議論が進められている。文化部についても、もう少し力を入れて、議論進めて体制を作っていけないといけないのではないかと。どうしても中学校なので、市町村ごとに検討を進めましょうということだと思うが、なかなかそれでは進まない。組織をもう少し広げて、どんどん議論して、方向性を探っていくことが必要ではないか。

## ＜教育に関する大綱全般＞

- ・提示された施策は、本県の学校教育の質を着実に深める、高めようとする強い意志を感じる。それぞれの施策について、現場の実態と専門的な知見の双方を踏まえ、総合的かつ体系的に分析されている。その上で、今回示された計画が、現場にとってやらされ感や負担感につながらないよう、現場とすり合わせて磨きあげていただきたい。

## ＜知事総括＞

- ・AIや発想の転換により、個々の子どもに応じた学習進度を考えていくこと、例えば進度別教室など、小さな県の小さな学校であるが故にできること、やらなければいけないことが本来ある。授業が面白くない理由はいろいろなパターンで生まれうることであり、現場と教育委員会の中核とでフィードバックを繰り返し、最も学力向上に繋がるようなことをやっていかなければならず、サポートしたい。
- ・高校教員について、英検1級を目指すという目標に変えても良いのではないかと。ALTをもっと活用すれば、教員の能力向上にもなり、また子どもたちも英語を楽しみ、海外に目を開ききっかけにもなる。
- ・高校教育改革の過程で今回専門高校を応援する基金ができた。専門人材の育成、特に理系人材を考えていくことは、これからの重要な課題。今日の議論をスタート地点にして、大きめの高校改革の議論というのを、次のステージで考えてもいいのではないかと。
- ・AIが急速に進んでいる。プラスの影響ももちろんあるが悪い影響もある。コントロールができないままとにかく技術だけが進歩しかけており、情報的健康やメディアリテラシーなど、これに対して備えていくことが、教育も含めて必要。
- ・素晴らしい人材と出会って体験することが、子どもたちの夢を作り人生を力強く変えていくきっかけにもなる。学校現場に任せきりにせず、PTA、地域でも協力し合い、我々県も人材を提供し、交流型でいわゆるふるさと教育、その夢を培うような教育の姿を地域独自に作っているのではないかと。

## 4 今後の予定

「教育に関する大綱」について、今回の総合教育会議等での意見を踏まえ、3月末を目途に改訂を行う。

## 鳥取県の「教育に関する大綱」の一部改訂について

令和 8 年 2 月 1 9 日  
教育学術課

## ○第一編（令和 5 年度から令和 8 年度までの中期的な取組方針）

一人ひとりが輝く社会となるよう以下を追記する。

- ・地域の高等教育機関等と連携した教員養成・確保対策や、教員として採用された者の奨学金返還を助成するなど教職指向性の高い学生の支援策等の充実。
- ・いわゆる高校無償化とあわせて公立高校や専門高校等の魅力化・特色化の推進を図るため、地域の産業界や高等教育機関等と連携し、社会変革を見据えた専門性の高度化など高校教育改革。
- ・学校給食費負担軽減、多様で質の高い教育機会の確保や選択肢の充実のため授業料支援など保護者負担の軽減に向けた取組を推進。
- ・情動的健康（情報の信頼性や安全性を確かめること、バランスよく情報摂取することの習慣化、適切に見極める力を高めることなど）の取組の展開。

## ○第二編（第一編に沿った毎年度の重点取組施策、数値目標）

令和 8 年度の重点取組施策に改訂するとともに、学力向上に係る新たな指標等を設定する。

## 〈第二編（令和 8 年度重点取組施策）～新規・拡充事業の主なもの～〉

新規・拡充する施策の概要	
1	<b>主体的に学び持続可能な社会の創り手を育む学校教育の推進</b> <b>学力向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の指導体制強化（小学校中学年以上における教科担任制の転換の加速、チーム担任制等を活用した指導体制の再構築）、教員研修の強化等による若手教員の指導力向上、児童生徒の理解度・つまずきの状況に合わせた指導システム構築等により基礎学力の定着を図る。</li> </ul> <b>教員の安定的な確保・育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 9 年度に「地域教育選修（地域教員希望枠）」が新設される鳥取大学及び山陰地域で唯一の教員養成学部のある島根大学と連携した教員養成・確保対策を進める。</li> </ul> <b>魅力ある学校づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3分野（専門性高度化・理数系人材育成・地域資源を生かした学びの推進）において高校教育改革を先導する拠点校を創出し、取組・成果を他の県立高校に普及し県立高校の魅力化・特色化の推進を図る。</li> </ul>
2	<b>社会全体で子どもを育み地域や家庭で学び合うふるさとキャリア教育の推進</b> <b>県内企業等の情報を知る仕組みの強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県内の就職に関する情報及び地域との関わりを継続するための情報を提供する「LINEとりふる」の登録を働きかけるとともに、とりふるの更なる機能・利便性の向上を図る。</li> <li>・県内高等教育機関がその知見や魅力を県内の小中高生に伝える取組を支援し、児童・生徒・学生の県内定着を促進する。</li> </ul>
3	<b>誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出す学びの環境づくり</b> <b>不登校対策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での学習や集団での生活が苦手な児童生徒に対する「校内サポート教室」の設置を市町村と連携して進め、子どもの自己肯定感を醸成する取組等を進める。</li> <li>・鳥取大学が新設する、居場所提供や相談支援を行う「子ども活動館（仮称）」への運営支援、特別な教育課程に基づく教育を行う学びの多様化学校の設置準備支援など、多様な学びの場の確保に向けた取組を進める。</li> </ul> <b>電子メディア適正利用啓発</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の保護者等に対して、電子メディアが乳幼児の発達に及ぼす影響や電子メディアに依存しすぎない育児等について啓発を行う幼児メディアアドバイザーの派遣を行う。</li> </ul>
4	<b>一人一人に寄り添い多様なニーズに対応した特別支援教育の充実</b> <b>ICTを活用した多様な学びの充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒一人一人が障がい特性に応じたICT活用によって教科等の学習効果を高め、社会的障壁を軽減できるよう、専門的な知見のある講師による指導助言等を受けながら個別最適な学びの充実を図る。</li> </ul>
5	<b>健やかな心と体の育成、スポーツ・文化芸術の振興</b> <b>中学校部活動の地域展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに市町村が認定した地域クラブの運営に対する支援を行うとともに、圏域ごとの意見交換会等を開催するなど伴走型の支援を行い、休日の部活動の地域展開を推進する。また、部活動指導員や外部指導者を配置する市町村への支援を行い、教員の負担を軽減するとともに、活動の充実を図る。</li> </ul>

## 〈指標 ～新規追加・目標値を引き上げるもの～〉

指標項目	指標	参考 (R7 実績) []は全国平均
【新規】全国学力・学習状況調査結果の各教科の上位層（A層、B層）の割合	全学年全教科で全国数値を上回る	小学校国語 A層 24.0% [27.7%] B層 24.9% [26.0%] 小学校算数 A層 21.8% [25.3%] B層 24.3% [25.6%] 中学校国語 A層 21.4% [25.8%] B層 26.8% [27.5%] 中学校数学 A層 23.0% [27.0%] B層 23.0% [26.1%]
県外大学等に進学した県内出身者の県内Uターン就職率	現行 39%→42% (政策項目の指標と統一)	30.8% ※R6 年度末実績

学力向上について  
～全国学力・学習状況調査等の結果と今後の取組～

令和7年2月19日  
小中学校課

1 全国学力・学習状況調査の結果について（実施日：令和7年4月14日から17日）

- ①教科調査においては、各都道府県の平均正答率の分布では、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかったものの、全学年全教科で全国平均を下回った。今回の結果を受け、オンラインで「臨時校長会」を開催し、県内の全小・中・義務教育学校の学校長と本県の状況と課題について共有するとともに、各学校における一層の取組推進をお願いしている。
- ②質問調査では、児童生徒の自己肯定感が高まってきており、いくつかの項目で調査開始以降、最も高い値となった。一方で、授業の内容について「よくわかる」と回答した児童生徒の割合は前年度を下回り、課題がある。1年間で学習した内容が児童生徒に身に付いているかを点検するための「学年末単元到達度確認問題」を実施し、各学校での授業改善を推進していく。

(1) 調査概要

- ①参加者 小・義務教育学校第6学年児童…約4,400人  
中学校第3学年・義務教育学校第9学年生徒…約4,000人
- ②調査項目 国語、算数・数学、理科、児童生徒質問調査（アンケート）

(2) 結果の概要

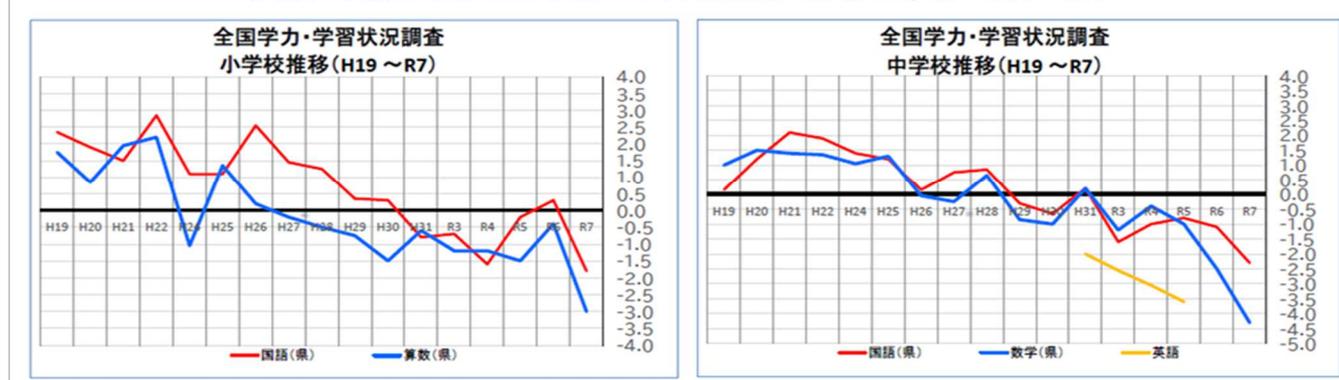
<各教科> 教科調査平均正答率（%）・平均IRTスコア（中学校理科のみ）

	国語		算数・数学		理科	
	本県（公立）	全国（公立）	本県（公立）	全国（公立）	本県（公立）	全国（公立）
小学校6年	65	66.8	55	58.0	56	57.1
中学校3年	52	54.3	44	48.3	49.0	50.3

※文部科学省は、平成29年度より小数点以下を四捨五入し整数値で公表している。

※IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

令和7年度までの全国学力・学習状況調査結果の推移（H19～R7）



<質問調査> 肯定的回答の割合

※上段：小学校の結果、下段：中学校の結果

質問事項	R7	R6	前年度比較
自分には、よいところがあると思う	86.8	83.9	+2.9
	85.0	82.7	+2.3
先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う	94.5	92.8	+1.7
	93.5	92.3	+1.2
国語の授業の内容はよくわかる	79.9	85.7	-5.8
	74.9	82.0	-7.1
算数・数学の授業の内容はよくわかる	75.2	79.5	-4.3
	65.3	71.4	-6.1

【成果と課題】

- 調査官等を招聘した研修や学校訪問による指導助言を行うことで、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりについて継続して一貫したメッセージを伝えてきた結果、県事業を活用して授業改善に取り組んだ小学校において、正答率に成果が見られた。
- 質問調査において、「自分にはよいところがあると思う」「先生が自分のよいところを認めてくれている」「困りごとなどについて先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した児童生徒の割合が、調査開始以降最も高い数値となった。各学校において、教職員が児童生徒の良さを認め、良好な人間関係を築いていることにより、自己肯定感が育まれていることが考えられる。
- ▲これまで本県の課題であった「思考力、判断力、表現力等」だけではなく、「知識及び技能」を問う基礎的な問題にも平均正答率が全国と比べて低い問題があった。また、質問調査において、授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合が、前年度を下回り、教科調査において、全教科で正答率が全国平均を下回ったことから、基礎学力の定着、児童生徒がわかる・できる授業の実践が十分でないと考えられる。

## 2 令和8年度の取組について

### 「社会の創り手の育成」「ウェルビーイングの向上」

令和5年に策定された国の教育振興基本計画の大きなコンセプトは、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」である。鳥取県においても、予測が困難な時代に自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育成することや、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングの向上を図るため、今後の学力向上の方向性を示す新たな計画「学びの改革推進プラン」を策定し、市町村教育委員会と連携し、全县一体となって学力向上の取組を進める。

### 「学びの改革推進プラン」の推進

重点目標を「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」として、3つの取組の方向性「基礎的・基本的な内容の理解・習得及び活用する資質・能力の育成」「生涯を通じて主体的に学び続けるために必要な資質・能力の育成」「教育データの利活用」を示し、今後の具体的な学力向上施策に取り組んでいく。

#### 取組1 基礎的・基本的な内容の理解・習得及び活用する資質・能力の育成

全国学力・学習状況調査の結果分析から、これまで基礎的な力はあるが、応用力に課題があるとしてきたが、その基礎部分にも課題が見られている。これまで、学習指導要領が示す3つの資質・能力のうち「思考力、判断力、表現力等」に注力して事業を展開してきたが、「知識及び技能」の習得も意識した教員の指導力向上、授業改善に取り組んでいく。

今年度の調査結果からも、児童生徒の「思考力、判断力、表現力等」の向上を図るため取り組んできた事業について、一定の成果が出ているものもあり、令和8年度も継続して実施する。

##### ○子どもが伸びる授業づくり

県内の小学校国語、算数の授業づくりの拠点とする学校を指定し、重点的な支援を行い、学習指導要領に示されている資質・能力を育成する授業づくりを推進する。

#### 取組2 生涯を通じて主体的に学び続けるために必要な資質・能力の育成

学力向上に向けて、教師の指導力の向上を図ると同時に、子どもが自ら学ぶ力の育成することが重要である。教わる授業から、「子どもが学び取る」「子どもが学び方を学ぶ」授業（探究的な学びや自由進度学習等）へと新しい学びの実現に向け転換を図る。そのため、子どもたちの可能性を最大限に引き出す学習を推進するため、自由進度学習や生成AI等の活用など、様々な取組みにチャレンジする学校を重点的に支援し、学力向上の好事例として全县に広める。

##### ○とっとりサキドリ研究校推進事業

子どもたちが自ら課題を発見し、他者と協働しながら課題解決に向けて主体的に学ぶ力を育成する授業づくりやこれからの時代を先取りした学校づくりを推進するため、柔軟な教育課程の実施、自由進度学習や生成AI等を活用した授業づくりなどの様々な取組にチャレンジする学校を支援する。

（対象となる取組）柔軟な教育課程の編成・実施、自由進度学習、教科担任制、チーム担任制 等  
（支援内容）講師派遣 ・ 県外先進校視察 ・ 連絡協議会の開催 等

#### 取組3 教育データの利活用

全ての子ども一人一人の力を最大限引き出すためには、教育データを利活用していくことが重要である。そのため、とっとり学力・学習状況調査や英検I B Aなど各種調査等から得られる教育データを最大限活用して、「一人一人の伸び」を把握し、確実に力を付ける授業改善を進め、きめ細かい支援を行う。

##### ○とっとり学力・学習状況調査の実施

児童生徒一人一人の「学力の伸び」や「非認知能力」等を把握し、そのデータを授業改善に活用するため、「とっとり学力・学習状況調査」を実施し、各学校での活用や分析方法等について学ぶ研修会や、教育データを学校経営に活用するための管理職向けの研修会（学校マネジメント研修会）を実施する。

### <令和8年度の重点取組（ととりの「学ぶ力」パワーアップ総合プロジェクト事業）>

「学習指導体制の構築」、「教員の指導力向上」、「基礎学力の定着」の3つの視点で、個々の教員の力量を伸ばしつつ、組織的に学力を向上させていく取組を展開

#### (1) 学校の指導体制の構築

- ・小学校中学年以上における「教科担任制」への転換促進

専科指導により、子どもたちの関心や個性に応じた得意分野を伸ばしていくことにも資する「教科担任制」への転換を加速する。

- ・チーム担任制等を活用した指導体制再構築

新卒採用者割合の増加を踏まえ、「学級編成の弾力的運用制度」とセットで、チーム担任制・複数担任制を積極的に導入し、指導経験や見識を有する教員を中心に、児童生徒に対し、学力向上につながる環境を担保する。

#### (2) 教員の指導力向上

- ・とっとり学力向上支援チームの設置

学力向上支援員（元校長等）と県指導主事構成する「とっとり学力向上支援チーム」を県教育委員会内に設置し、継続的・重点的な学校訪問を実施することで、若手教員の育成、授業改善による指導力向上を図る。

#### (3) 基礎学力の定着

- ・単元到達度評価（確認）問題のC B T方式による実施

県教育委員会が作成する「単元到達度評価（確認）問題」を、C B T方式により定期的に配信し、各学校において、児童生徒の理解度の確認につなげ、定着が不十分な内容を繰り返し指導することで基礎学力の定着を図る。

## 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

令和8年2月19日  
体育保健課

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について報告します。

## 1 調査概要

平成20年度から文部科学省（現在はスポーツ庁）が小学5年生、中学2年生を対象として実施している調査である。（悉皆調査）

## 2 体力・運動能力の調査結果について

体力合計点はいずれの学年も全国平均値を上回っており、また昨年度より順位が上回った種目が多かった。また、全国より上位層の割合が高く、下位層の割合が低くなっており、全体的に体力・運動能力が身につけているという結果となった。

- ・体力合計点は小学5年男女、中学2年男女とも全国平均値を上回った。
- ・体力合計点は小学5年女子、中学2年男女が昨年度の順位を上回った。
- ・全32種目のうち、25種目で全国平均値を上回った。（数値が赤字の種目）
- ・全32種目のうち、26種目で昨年度の順位を上回った。（矢印が赤字の種目）
- ・中学2年男子の50m走、中学2年女子の反復横跳びは全国1位となった。

## (1) 各実技テスト種目の状況（全国順位の（ ）内の数字は令和6年度の全国順位）

項目	小5男子			小5女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	15.97	16.12	18位(25) ↑	15.61	15.83	14位(24) ↑
上体起こし	19.45	19.47	19位(28) ↑	18.36	18.52	18位(25) ↑
長座体前屈	33.88	32.65	41位(44) ↑	38.17	36.82	40位(41) ↑
反復横跳び	40.90	41.67	20位(15) ↓	38.71	40.15	12位(18) ↑
20mシャトルラン	47.95	53.61	3位(3) →	36.87	42.05	5位(5) →
50m走	9.46	9.42	12位(13) ↑	9.77	9.75	21位(20) ↓
立ち幅跳び	150.96	150.64	27位(38) ↑	142.39	142.76	20位(41) ↑
ソフトボール投げ	21.06	21.72	18位(22) ↑	13.10	13.52	26位(31) ↑
体力合計点	53.03	53.65	14位(13) ↓	53.98	54.95	14位(19) ↑
項目	中2男子			中2女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	28.91	29.18	26位(23) ↓	23.12	23.47	18位(39) ↑
上体起こし	25.99	25.87	27位(24) ↓	21.62	21.58	23位(28) ↑
長座体前屈	44.98	44.30	34位(41) ↑	46.97	46.05	35位(43) ↑
反復横跳び	51.63	53.53	2位(10) ↑	45.77	47.41	1位(8) ↑
20mシャトルラン	78.59	82.95	4位(11) ↑	50.44	54.14	4位(8) ↑
50m走	8.00	7.84	1位(9) ↑	8.97	8.88	9位(29) ↑
立ち幅跳び	197.50	199.89	17位(21) ↑	166.39	167.80	19位(28) ↑
ハンドボール投げ	20.66	20.81	27位(34) ↑	12.36	12.41	29位(36) ↑
体力合計点	42.06	43.54	10位(19) ↑	47.46	48.75	13位(25) ↑

※50m走は数値が低い方が好成績

## (2) 総合評価の状況【資料1】

各実技テストの結果を10点満点で換算し、A～Eの5段階で判定した結果は以下のとおり。

(Aが最も高評価)

総合判定	小5男子		小5女子		中2男子		中2女子	
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県
A Bの割合	34.2%	36.7%	36.3%	39.5%	35.5%	40.9%	53.3%	57.3%
D Eの割合	34.2%	30.9%	30.5%	24.4%	30.5%	25.9%	19.0%	15.3%

### 3 運動意欲、運動習慣、生活習慣等の状況

#### (1) 運動意欲・運動習慣

運動意欲がある児童生徒や体育が楽しいと感じる児童生徒の割合は高い水準で推移しているが、運動の実施時間は減少傾向にある。

- ・運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合は小学5年男女、中学2年男子は85%以上であり上昇傾向。中学2年女子は75%で昨年度より減少。
- ・体育・保健体育の授業は「楽しい」「やや楽しい」と回答した児童生徒はいずれも80%以上。ただし、女子は小学5年、中学2年とも割合が減少。
- ・体育、保健体育以外の運動時間は小学5年、中学2年の男女とも平成26年度から減少傾向。

#### (2) 生活習慣

朝食を摂ることや睡眠時間の確保については改善傾向がみられるが、スクリーンタイムが長時間となる児童生徒の割合は上昇傾向である。

- ・朝食を「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年男女、中学2年男子は上昇傾向。中学2年女子は昨年度より減少。
- ・睡眠時間が「8時間以上」の割合は小学5年の男女、中学2年男子が増加。
- ・スクリーンタイムが3時間以上の割合は小学5年で昨年度より減少したものの、平成29年度と比較すると全ての学年において急激に上昇。
- ・肥満度は、小学5年女子が大きく増加。痩身度は、令和3年度からゆるやかに増加傾向。

### 4 考察

- ・全身持久力を向上させるための取組（3分間走、マラソンカードの活用等）を7割以上の学校で行っており、走力や筋力のアップにつながっていると考えられる。
- ・柔軟性向上のための取組（ワンミニッツエクササイズ、ストレッチ等）を6割以上の学校で実施しており、長座体前屈の記録の向上につながっていると考えられる。
- ・各学校が児童生徒の実態に応じて策定する体力向上推進計画書に基づいて取り組んでおり、その成果が経年の伸びにつながっていると考えられる。また、計画書には具体的な数値目標を記載するようしており、各学校が目標を明確にして体力の向上に努めたことが成果につながっていると考える。
- ・今年度はトップアスリート派遣事業を活用する学校等が増えた（R6:15 団体、R7:20 団体）ことで、さらなる運動意欲の向上につながっていることが期待される。
- ・国の体育・保健体育指導力向上研修に保育教諭等を派遣し、県内の3会場で伝達講習会を実施している。毎年100名程度の保育教諭等の参加があり、参加した保育教諭等の指導力向上につながっており、また運動遊びの楽しさを十分に味わった幼児が小学校に進学したことで、運動意欲の向上や体力向上につながっていることが考えられる。

### 5 今後の取組

#### (1) 運動意欲・運動習慣

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動が好き」「体育・保健体育は楽しい」と回答した児童生徒は体力合計点が高いことから、引き続き、学校体育講習会等を通じて子どもたちの運動意欲を高められるような授業づくりを推進する。
- ・各学校で取り組んでいる好事例を体育主任連絡協議会で共有する。
- ・体格と体力の関係や年代ごとの効果的な運動について専門家に分析を依頼し、今後の施策に活かしていく。
- ・年齢に合った体力が身についているため、引き続き低学年では運動遊びを意識し、運動意欲が継続するよう仕掛けていく。また、遊びの王様ランキングを継続して実施し、参加が増えるように働きかけていく。特に幼稚園・認定こども園・保育所等への効果的な周知の在り方を検討し、参加数の増加を図っていく。
- ・中学3年生は運動部活動の引退、高校受験等で運動する機会が減少するため、適度な運動が心の安定につながることや脳に好影響があること等について検証し、まとめた提言を体育主任連絡協議会等で周知する。

#### (2) 生活習慣

- ・生活習慣と合計得点には相関関係があり、その差は年齢が上がるほど影響が拡大する傾向があるため、保護者に対して低学年から生活習慣の改善を意識させる啓発用チラシ等を作成し、周知していく。

【資料1】今年度の結果と前年度との比較

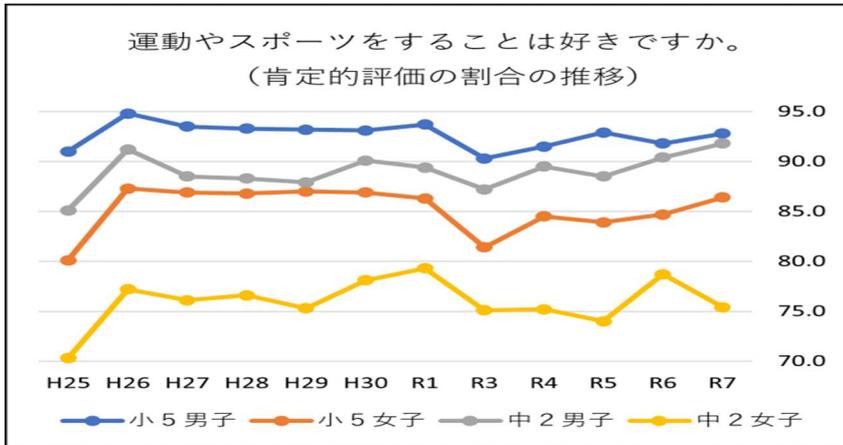
区分	小学5年生										中学2年生									
	男子					女子					男子					女子				
	R6	順位	R7	順位	比較	R6	順位	R7	順位	比較	R6	順位	R7	順位	比較	R6	順位	R7	順位	比較
握力	全国平均 16.02 県平均 15.99	25	15.97 16.12	18		15.78 15.81	24	15.61 15.83	14		28.91 29.28	23	28.91 29.18	26	▼	23.14 22.97	39	23.12 23.47	18	
上体起こし	全国平均 19.19 県平均 19.03	28	19.45 19.47	19		18.16 18.10	25	18.36 18.52	18		25.82 25.84	24	25.99 25.87	27		21.47 21.20	28	21.62 21.58	23	
長座体前屈	全国平均 33.79 県平均 32.31	44	33.88 32.65	41		38.21 36.75	41	38.17 36.82	40		44.32 43.16	41	44.98 44.30	34		46.44 44.98	43	46.97 46.05	35	
反復横跳び	全国平均 40.67 県平均 41.56	15	40.90 41.67	20		38.71 39.57	18	38.71 40.15	12		51.49 52.44	10	51.63 53.53	2		45.67 46.67	8	45.77 47.41	1	
20mシャトルラン	全国平均 46.90 県平均 52.52	3	47.95 53.61	3		36.60 41.91	5	36.87 42.05	5		78.65 81.85	11	78.59 82.95	4		50.48 53.53	8	50.44 54.14	4	
50m走	全国平均 9.50 県平均 9.47	13	9.46 9.42	12		9.76 9.74	20	9.77 9.75	21	▼	7.99 7.90	9	8.00 7.84	1		8.96 8.97	29	8.97 8.88	9	
立ち幅跳び	全国平均 150.46 県平均 149.07	38	150.96 150.64	27		143.18 140.98	41	142.39 142.76	20		197.16 198.65	21	197.50 199.89	17		166.22 166.90	28	166.39 167.80	19	
ボール投げ	全国平均 20.74 県平均 21.22	22	21.06 21.72	18		13.15 13.38	31	13.10 13.52	26		20.49 20.32	34	20.66 20.81	27		12.32 12.23	36	12.36 12.41	29	
合計点平均	全国平均 52.54 県平均 52.85	13	53.03 53.65	14		53.93 54.44	19	53.98 54.95	14		41.69 42.50	19	42.06 43.54	10		47.22 47.47	25	47.46 48.75	13	
総合評価A,Bの割合	全国平均 32.1% 県平均 33.4%		34.2% 36.7%			35.9% 37.8%		36.3% 39.5%			34.0% 37.4%		35.5% 40.9%			52.6% 54.1%		53.3% 57.3%		
総合評価D,Eの割合	全国平均 35.9% 県平均 33.6%		34.2% 30.9%			30.7% 28.6%		30.5% 24.4%			31.5% 28.6%		30.5% 25.9%			19.5% 18.0%		19.0% 15.3%		

■ 全国平均と比較して下回っている項目（総合評価D,Eの割合は、数値が増えたら下回るとする。）

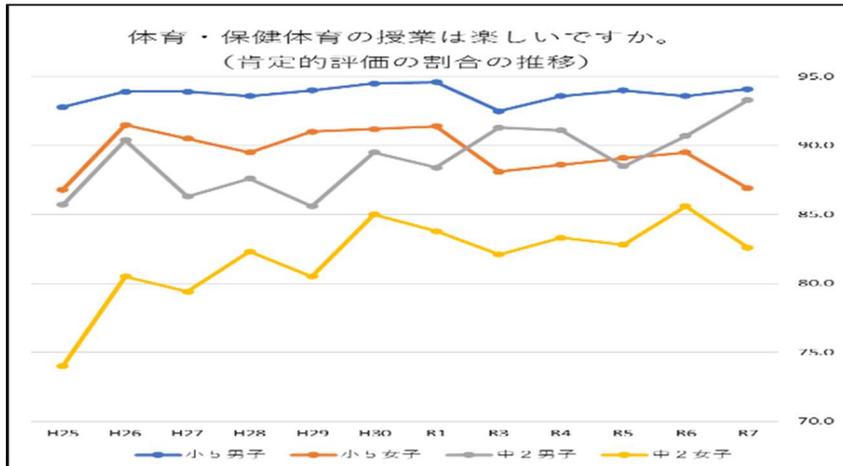
▼ 令和6年度と比較して県平均の数値が下回った項目（総合評価D,Eの割合は、数値が増えたら下回るとする。）

【資料2】児童生徒質問紙の推移

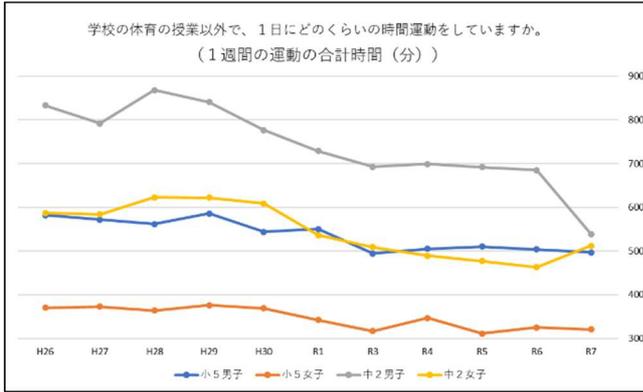
(1) 運動やスポーツへの関心



(2) 体育・保健体育の授業への関心



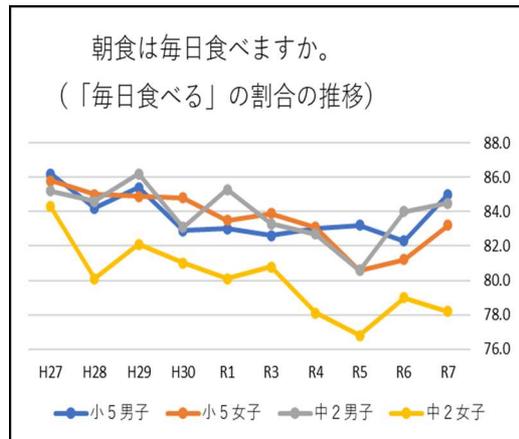
### (3) 運動の実施時間



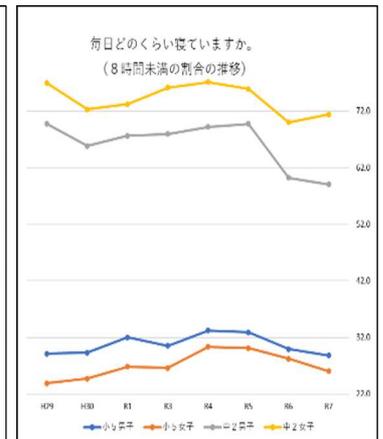
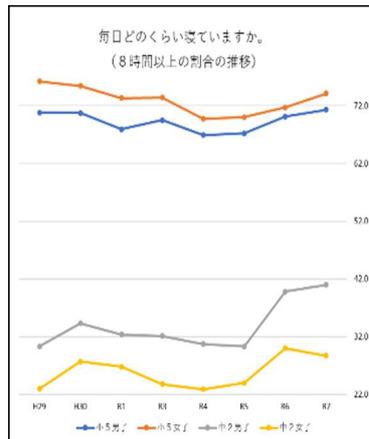
【区分】

- 小5男子
- 小5女子
- 中2男子
- 中2女子

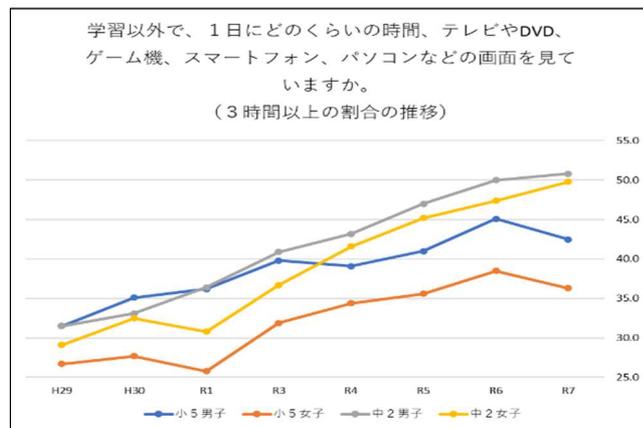
### (4) 朝食の有無



### (5) 睡眠時間



### (6) スクリーンタイム



### (7) 肥満度



【区分】

- 高・中・軽度肥満
- 瘦・高度痩身



## 中学校における部活動の地域展開・地域連携について

令和 8 年 2 月 1 9 日  
体 育 保 健 課

本県における中学校の地域展開・地域連携は、令和 5 年 8 月に策定した「鳥取県公立中学校等における部活動の地域連携・地域移行に向けた推進計画」（以下、「県推進計画」という。）を参考としながら、各市町村がそれぞれのスポーツ・文化芸術活動を取り巻く環境等の状況に応じて今後の休日における部活動の在り方を検討し、部活動改革を進めている。

### 1 県の方針

学校の部活動から切り離して地域で活動する「地域展開型」を基本とするが、直ちに地域での活動への移行が困難な場合は、学校や地域の状況に応じて、「拠点校（合同部活動）型」や地域人材が部活動指導を行う「地域連携型」により、生徒の活動の機会を確保しながら「地域展開型」への取組を推進する。

### 2 これまでの主な取組内容

- ・運動部活動在り方検討会の開催
- ・各競技団体との意見交換会の開催
- ・市町村訪問による意見交換及び広域連携を見据えた圏域ごとの意見交換会の開催
- ・国事業を活用した地域クラブに係る実証事業の実施
- ・部活動指導員や外部指導者を配置する市町への支援

### 3 県内における地域展開・地域連携の状況

- ・市町が取組の主体として地域の課題や問題点を洗い出し、地域の実情に応じた取組の方向性を検討し、地域・生徒・保護者の理解を得ながら取組を推進している。
- ・市町村が認定する地域クラブによる活動は 3 市町の 11 クラブであり、全県での取組には至っていない。（境港市 7 クラブ、伯耆町 2 クラブ、南部町 2 クラブ）
- ・R 7 は部活動指導員を 182 名、外部指導者を 74 名配置しており、多くの市町が地域連携型による部活動を実施している。

#### 《課題》

- ・これまで部活動が担ってきた教育的意義を継承する活動団体（受け皿）及び指導者の確保
- ・地域クラブの立ち上げや指導者謝金を含めた運営に係る安定的な財源の確保等

### 4 今後の取組

#### （1）県推進計画の改訂

令和 7 年 12 月に文部科学省が改訂した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の内容を踏まえ、今年度中に県推進計画の改訂を行う。

#### （2）県事業による取組

国のガイドライン改訂に伴い、新たな国庫補助のメニューが創設されたことから、それらを活用するとともに、市町村とも連携しながら県における地域展開・地域連携を推進していく。

細事業名	内容
（新規）地域クラブ活動への支援	・市町村が認定した地域クラブに係る運営費を支援する市町に対して経費の一部を補助する。国が新たに創設した国庫補助事業であり、指導者謝金や備品費も対象となる。
市町の体制整備への支援	・市町において、関係団体・関係者との連絡調整・指導助言等を行う総括コーディネーターの配置や協議会の設置等の体制を構築する。
中学校部活動指導員配置事業	・教員の代わりに指導や大会引率等を担う部活動指導員を配置している市町に対して経費の一部を補助する。（配置予定：204 名）
部活動外部指導者活用事業	・運動種目に関して専門的な指導を行う外部指導者を配置している市町に対して経費の一部を補助する。（配置予定：90 名）
地域展開推進に向けた検討会開催等	・県に総括コーディネーターを配置するとともに、人材バンクの運営や部活動の在り方検討会や圏域ごとの意見交換会等を開催する。

※県を經由しないが、経済的困窮世帯の生徒への参加費等の支援に対する国庫補助制度も創設された。

# 高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】

## ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

### 1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展  
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化  
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生  
(事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない  
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**  
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく**、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



### 2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく  
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

 **学びの在り方の転換**  
(New Transformation)

- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
- ✓ スクール・ミッション、**スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
- ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

 **最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化**  
(New Excellence)

- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び**、STEAM教育、産業界と協働した**専門高校の学びの充実**  
➔ **理数・文系的素養**や**AIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍する**ロールモデル**を体感
- ✓ 各高校の**特色化・魅力化**  
➔ 学科構成の見直し、**専門高校の機能強化・高度化**、**グローバル人材の育成**  
➔ **「普通科」の在り方の転換**、**即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

 **学ぶ機会・アクセスの確保**  
(New Education)

- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学び**を保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す  
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
- ✓ **通信制高校の教育の質の確保・向上**
- ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育**や**日本語指導**が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。  
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

### 3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

#### 国の 高校教育改革に関する グランドデザイン策定

#### 都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

#### 安定財源を確保した上で、 交付金等の新たな財政支援の 仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校(改革先導拠点)を創設。

#### 新しい学校のイメージや取組例

##### 専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)



###### (学校のイメージ)

地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

##### 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する人材の育成等)



###### (学校のイメージ)

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

##### 地理的アクセス・多様な学びの確保



###### (学校のイメージ)

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

#### 2040年までに達成を目指す目標

##### 【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

##### 【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校:100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度

##### 【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

## 児童手当支給事務に係るマイナンバー誤登録について

令和8年2月26日  
教育人材開発課

この度、教育人材開発課が所管する児童手当支給事務の業務システムにおいて、計5件マイナンバーの誤登録があることを確認しました。速やかにマイナンバーを収集している業務システム上の登録情報の修正を行ったほか、誤登録による影響が確認された1名の対象者について、謝罪及び説明を行いました。

なお、本件における個人情報の漏洩は確認されていません。

今後、同様の事案が発生しないよう、再発防止の徹底に取り組んでいきます。

### 1 概要

#### (1) 経緯

令和7年7月に指定難病受給者証交付事務（健康政策課所管）及び小児慢性特定疾病医療費受給認定事務（家庭支援課所管）の業務システムにおいて、マイナンバーの誤登録があることが判明したことを受け、同年8月から、本県でマイナンバーを取り扱うすべての所属において総点検を実施した。

教育委員会所管分の児童手当支給事務については、保有しているマイナンバーの全数点検（3,180件）を実施したところ、5件の誤登録が判明した。

#### (2) 誤登録の原因

申請時に提出されたマイナンバーが記載された書類をもとに、業務システムへ登録を行う際、受給資格者分（職員分）と家族分を取り違えて業務システムに登録したため。

#### (3) 誤登録による影響

誤登録があったうちの1件について、受給資格者の変更に伴い、県から受給した児童手当を返納していただいた。なお対象者の配偶者が同額の児童手当を市町村から受給したため、対象世帯における受給額に影響はなかった。

#### (4) 対応状況

対象者に対し、謝罪及び説明を行い、受給額を県へ返納いただくとともに、速やかにマイナンバーを収集している業務システム上の登録情報の修正を行った。

### 2 再発防止策

改めて担当職員以外の複数の職員による確認体制を整備し、マイナンバーを業務システムに登録する際には、必ず2人以上の職員によるダブルチェックを徹底する。

# 令和新時代の県立高等学校教育実施計画<前期（令和9年4月1日実施分）>について

令和8年2月26日  
高等学校課

県教育委員会では令和8年度から令和17年度までの県立高等学校の在り方に関する基本方針を令和6年3月に策定し、基本方針に基づき前期（令和8年度～令和12年度）基本計画を令和7年3月に策定しました。

このたび、再編対象学校の具体的な教育内容等について実施計画<前期（令和9年4月1日実施分）>を令和8年2月16日開催の定例教育委員会に諮り、策定しましたので報告します。

## 1 基本計画<前期>（令和7年3月15日策定「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本計画<前期>（令和8年度～令和12年度）」の概要

### ■県立高校がめざす新しい姿

自分の夢や目標の実現に向けた可能性を広げるために  
「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造します

方針1：生徒一人一人の資質・能力や可能性を最大限伸ばす学びを推進します。

方針2：将来の地域を支える人材を育てるふさとキャリア教育を推進します。

方針3：様々な現代的諸課題に対応し、鳥取県や日本、世界に貢献できる力を育成する学びを推進します。

### ■基本計画<前期>の観点

前期（令和8年度～令和12年度）は、将来の鳥取県を支える人材育成をさらに推進するため、専門学科を整理するとともに、より専門性を高度化します。あわせて、各地区において規模の適正化を図り、それぞれの高校の魅力化を推進します。

## 2 令和9年4月1日実施再編内容（R7.3.15策定「基本計画<前期>」より抜粋）

### ■前期再編内容※前期中に240人程度の募集定員減

#### （1）専門学科の整理・専門性の高度化

①鳥取湖陵高校の工業学科を鳥取工業高校に再編（鳥取湖陵高校▲1学級（△38人））

②境港総合技術高校の工業学科の一部（電気電子科）を米子工業高校に再編  
（境港総合技術高校▲1学級（△38人））

※境港総合技術高校の工業学科（機械科）はひとまず維持。（教職員配置等の激変緩和、施設設備の観点）

#### （2）規模の適正化

③日野高校を「小規模校の在り方に関する基準」に基づき再編（▲1学級（△38人））

## 3 実施計画<前期（令和9年4月1日実施分）>

基本計画に示す方向性を実現させるため、各学校の特色ある教育活動を「実施計画」として示します。

※このたびは、令和9年4月1日再編実施5校について示します。

## 4 参考：基本計画スケジュール

年度		前期（R8～R12）	後期（R13～R17）
R8			
R9.4.1		①鳥取湖陵高校、鳥取工業高校再編 ②境港総合技術高校、米子工業高校再編 ③日野高校再編	
R10.10	前期	以下の④～⑥の基本計画、実施計画公表 （普通学科、総合学科、小規模校を整理） ④鳥取東高校、鳥取西高校、青谷高校、岩美高校、八頭高校、 智頭農林高校の中から▲1～2学級程度の募集定員減 ⑤倉吉東高校、倉吉西高校、倉吉農業高校、鳥取中央育英高 校の中から▲1～2学級程度の募集定員減 ⑥米子東高校、米子西高校、米子高校、境高校の中から▲1 学級程度の募集定員減	後期基本計画公表 ※対象学校名公表
R11			後期実施計画公表 （R11以降）
R12		④⑤⑥実施	
R13～17	後期		後期計画実施

## 5 実施計画

### (1) 専門学科の整理・専門性の高度化

#### 専門性の高度化

##### ■鳥取工業高校

**地元企業との連携による先端技術を活用した学びやSTEAM教育をとおして、  
社会の持続的発展に貢献し、地域を支えるものづくり人材の育成をめざします**

 **専門的な学びにより、このような専門人材を育成します**

- 機械科  
機械についての仕組みや部品設計、材料の加工方法などの学習をとおして、エキスパートとして活躍できる機械技術者を育成します。
- 電気科  
発電から利用までの電気の基礎の学習をとおして、著しい技術発展に対応できる電気技術者を育成します。
- 情報工学科  
コンピュータシステム、プログラミング技術、AI人工知能等の学習をとおして、新時代に対応できる情報技術者を育成します。
- 建設工学科（建築類型・土木類型）  
まちづくりの知識・技術についての学びをとおして、最新の技術や情報、高度な専門性を身に付けた建設技術者を育成します。

 **このような学びを充実させます**

- 入学後に自分に合った学科を選択します（くくり募集）  
1年次は4つの科（機械、電気、情報、建設）の実習等をとおして、工業について幅広く学習します。  
2年次からはそれぞれの科で将来の自分の進路に向けて専門性を高める学習ができます。
- 鳥工版 STEAM 教育を推進します  
教科等横断的な学びにより多面的な見方・考え方を学び、「課題研究」を中心とした探究学習によって地域の課題に気付き、ものづくりをとおしてその解決に向けて取り組みます。
- 最先端技術を習得する学びを推進します  
生成AI、VRゴーグル、3Dプリンタ、モーションキャプチャやドローンなどの先端機器やデジタル技術を活用し、産業界や研究機関と連携し、社会の様々な課題解決に取り組みます。

－その他、特色ある教育活動－

##### ○デュアルシステム

毎週1回3か月にわたる長期インターンシップを行います。各科の専門科目に関連の深い企業での実習をとおして、働くことに対する認識と理解を深めます。

##### ○スーパー工業士

AIをはじめとするデジタル技術等の県独自プログラムを1年間受講し、一定の成績を修めた生徒を「スーパー工業士」として県が認定します。高度な生産現場に対応する新しいものづくりについて学びます。

##### ○各種技能大会等への出場

様々な技能大会等に出場し、他校の生徒と技術・技能を競います。練習、大会を通じ、相互に切磋琢磨することで自らを高める自己鍛錬の場となります。（旋盤作業、電気工事、測量、木材加工、溶接、ロボット競技、電気自動車、マイコンカー 等）

 **県立高校での学びの先には、このような進路があります**

- 進学 4年制大学工学部、工業系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（機械系、電気・電子系、建設系 等）、公務員 等

－その他、資格取得等－

就職、進学に向けてのアピールにつなげます。

- ・情報技術検定 ・技能検定（旋盤、検査、保全、電気・電子機器組立、シーケンス制御、建築大工）
- ・危険物取扱者 ・機械製図検定 ・ドローン検定 ・電気工事士 ・測量士補 ・土木施工管理技士補
- ・建築施工管理技士補 ・火薬類取扱保安責任者 等

 **専門性の高度化を図るため、このような施設設備の整備を検討します**

- ・ドローン等の最先端技術を活用した学びに対応できるよう、施設改修を検討します。
- ・実社会において活用されている最先端設備の導入を検討します。

■米子工業高校

**利用者の視点で「ものづくり」を学ぶとともに、常識にとらわれることなく活用することをおして、新しいものを創り出す技術革新の感覚を養い、持続可能な地域社会を創る人材の育成をめざします**

 **専門的な学びにより、このような専門人材を育成します**

- 機械科  
金属加工を中心としたものづくりや設計製図、機械制御についての学びをとおして、機械に関する幅広い知識や技術を持ち、高い技術を身に付けた機械技術者を育成します。
- 電気科  
電気を安全に供給し有効活用する技術についての学びをとおして、電気に関する新たな課題を解決する電気技術者を育成します。
- 情報電子科  
プログラミング、IoT など情報技術全般や電子回路などの電子技術についての幅広い学びをとおして、電子情報分野で活躍できる情報技術者を育成します。
- 環境エネルギー科  
山陰地方で化学を専門に学ぶ唯一の科です。電気・電子の基礎、環境化学やエネルギー管理についての化学専門の学びをとおして、環境を大切にする現代社会のニーズにあった人材を育成します。
- 建設科（土木）  
測量や設計、施工技術についての学びをとおして、都市基盤に関わる土木技術者を育成します。
- 建設科（建築）  
建築物に関わる設計、製図、木材加工等についての学びをとおして、居住環境に関する幅広い知識を持った建築技術者を育成します。

 **このような学びを充実させます**

- 産業界や地域人材と連携した技術講習や資格指導を推進します  
プロから実技指導を受けることで、技能レベルの向上や資格試験の合格を実現します。
- 防災・減災に関するものづくりについて学びます  
お湯で発電する装置の製作や太陽電池を利用した移動式充電装置の製作、泥水の浄化、ドローン実習等をとおして、専門の学びを防災・減災に活かします。
- 充実した設備により最先端技術を習得する学びを推進します  
最新のデジタル機材等の教育環境により、AI やデータサイエンスなどの技術を取り入れた授業を行います。

－その他、特色ある学び・教育活動－

- 高校生ものづくりコンテスト、ジャパンマイコンカーラリー等各種大会への参加  
各種大会への出場に向け、練習や研究に励み、技能を磨きます。
- 放課後キャリア塾  
ものづくり人材としての将来の在り方や進路について考えるセミナーをキャリアアドバイザーが放課後に開催し、自己理解、職業理解を深めます。
- スーパー工業士  
AIをはじめとするデジタル技術等の県独自プログラムを1年間受講し、一定の成績を修めた生徒を「スーパー工業士」として県が認定します。高度な生産現場に対応する新しいものづくりについて学びます。

 **県立高校での学びの先には、このような進路があります**

- 進学 4年制大学工学部・情報系学部、工業・情報系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（機械系、電力系、建設系 等）、公務員 等

－その他、資格取得等－

- 就職、進学に向けてのアピールにつなげます。
- ・危険物取扱者 ・機械加工技能士 ・電気主任技術者 ・電気工事士 ・電気工事施工管理技士補 ・消防設備士
  - ・基本情報技術者 ・IT パスポート ・測量士補 ・土木施工管理技士補 ・建築施工管理技士補 等

 **専門性の高度化を図るため、このような設備整備を検討します**

- ・より現代社会の課題に即した学びを実践するため、高性能電子顕微鏡や高性能PC等の最先端設備の導入を検討します。

■鳥取湖陵高校

**県内唯一の情報学科をはじめ、農業学科、家庭学科の幅広い知識や専門的な先端技術を習得し、  
地域産業に貢献する人材の育成をめざします**



**専門的な学びや学科を超えた学びにより、このような人材を育成します**

- 情報学科  
コンピュータシステムの構築等、情報に関する幅広い知識と技術を習得することとおして、高度情報社会で活躍する情報技術者を育成します。
- 農業学科  
植物の栽培管理や生産・加工・食品・流通に関わる幅広い知識と技術を習得することとおして、地域に貢献する産業人材を育成します。
- 家庭学科  
衣食住、保育、福祉に関わる幅広い知識と技術を習得することとおして、心豊かな生活を創造する地域の担い手を育成します。



**このような学びを充実させます**

- 全ての科で「情報Ⅰ」を履修し、最先端の情報教育を実践します  
情報活用能力を基盤とした各専門学科に必要な知識や技術を身に付けます。
- 多様な進路に応じた学びが選択できます  
他学科の科目を選択して学習することにより、一人一人の多様な進路実現を可能にします。幅広く専門性に触れることで新しい価値を生み出すことが可能となります。
- 学科横断型の学びを行います  
異なる学科の生徒が連携して学びます。学科横断型の課題研究をとおし、専門性を活かしつつ、より幅広い知識と柔軟な発想により学びに広がりを持たせます。

－その他、特色ある学び・教育活動－

- データサイエンス探究  
社会課題（感染症、環境、格差、少子高齢化、天気予報）などを題材に、統計・AI・情報倫理などの分析力とリテラシーを育成します。
- シミュレーションプログラミング  
数学や物理のモデルをプログラム化し、シミュレーションで実証します。論理的思考力と応用力を育成します。
- デジタル機器を用いた創造活動  
3Dプリンタ等最新設備を活用した創作体験を行います。デジタルを形にする体験をとおして、創造力を養います。
- スーパー農林水産業士  
企業や農家での長期インターンシップを中心とした職業教育カリキュラムを優秀な成績で修了した生徒を鳥取県が認定します。



**県立高校での学びの先には、このような進路があります**

- 進学 4年制大学農学部・情報系学部、保育・福祉系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（造園系、福祉系、情報系 等）、公務員 等

－その他、資格取得等－

- 就職、進学に向けてのアピールにつなげます。
- ・情報技術検定 ・日本農業技術検定 ・技能検定（造園） ・測量士補 ・高校食物調理技術検定
  - ・高校保育技術検定 等



**学びの充実を図るため、このような施設設備の整備を検討します**

- ・地域課題解決や新たな価値の創造に挑戦する「湖陵ラボ」の整備を検討します。

■境港総合技術高校

海洋練習船「若鳥丸」や自動車実習設備、介護実習設備といった県内オンリーワンの教育環境のもと、地域の産業界におけるスペシャリストやプロフェッショナルを育成します

 専門的な学びや学科を超えた学びにより、このような人材を育成します

- 水産学科
  - ・若鳥丸による航海実習などをおして、海、船、魚のスペシャリストを育成します。
  - ・地元企業と連携した鮮魚や水産加工品販売など、魚食普及活動や商品開発をおして、地域に貢献する産業人材を育成します。
- 工業学科
 

山陰地方で唯一、在学中に3級自動車整備士の受験資格を取得できる一種養成施設での学びをおして自動車整備士等の機械技術者を育成します。
- 福祉学科
 

介護、保育等、福祉に関する様々な実習をおして、社会に貢献できる福祉人材を育成します。

 このような学びを充実させます

- 国家資格の取得につなげます
 

山陰地方で唯一自動車整備士の資格を取得できます。また、介護福祉士、海技士など将来につながる資格を取得することで地域を支える人材育成につなげます。
- 充実した施設・設備で学べます
 

海洋練習船 若鳥丸、食品加工実習棟、自動車整備実習棟、介護実習室など充実した施設での学びをおして実践力を養います。さらに海洋データ処理室の整備等も検討し、スマート教育の実施とともに、より地域に役立つ研究を推進します。
- 多様な科目から興味のある学びを選択できます
 

ダイビング、自動車実習、保育音楽、境のさかななど地域資源を活かした地域に根差した学びを進めます。

－その他、特色ある学び・教育活動－

○キッチンカープロジェクト～境総合見える化計画～

キッチンカーをおして、学科を超えた連携や協働学習を実施します。キッチンカーを主に機械科が製作し、食品・ビジネス科が販売実習を行います。また、福祉科が保育園や高齢者施設等のイベントで活用するほか、海洋科が近海で獲った魚を使い魚食普及活動を行います。

○専門学科と英語科との探究的な学習の推進

境港という地の利を活かし、国際クルーズ船で水木しげるロード等を訪れる海外からの観光客に対して、英語を使つての接客や観光案内、販売実習を行います。ALTと協力して探究的な学習を展開します。

○水中ドローンを用いた境総合版ビッグデータの構築

公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校、地域企業と連携し、水中ドローンを用いて美保湾での海洋調査を行います。調査データを5年、10年と蓄積し、データサイエンス学習を展開していきます。

○eスポーツを用いた高齢者施設、特別支援学校との交流

福祉科では、授業等でeスポーツを学び、それをひとつのツールとして高齢者と交流します。導入前後で高齢者がどのように変容したか記録し分析します。また、特別支援学校との交流においては、特別支援学校の生徒が使いやすいようコントローラー等を機械科で製作するなど学科を超えた連携を図ります。

○県外生徒及び他地域からの生徒募集

全国的にも少ない水産学科を中心に、県外及び県内他地域からの生徒を募集していきます。

 県立高校での学びの先には、このような進路があります

- 進学 4年制海洋系大学、福祉系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（水産系、海運系、福祉系）、公務員 等

－その他、資格取得等－

就職、進学に向けてのアピールにつなげます。

- ・四級海技士（航海・機関）
- ・一級小型船舶操縦士
- ・第二級海上特殊無線技士
- ・潜水士
- ・簿記実務検定
- ・2級ボイラー技士
- ・危険物取扱者
- ・3級自動車整備士
- ・小型車両系建設機械運転業務特別教育（フォークリフト1t未満）
- ・介護福祉士国家試験受験資格
- 等

 学びの充実を図るため、このような施設設備の整備を検討します

- ・水中ドローン等で収集したデータを蓄積し、分析、研究を行うために必要な設備の整備を検討します。
- ・海洋調査で捕獲した魚の観察、飼育や、中海のマハゼの研究として稚魚の養殖を行うなど、大型水槽の設置を検討します。

## (2) 規模の適正化

### 小規模校における特色ある学びの推進

#### ■日野高校

**日野郡の豊かな自然環境、地域資源を活かしつつ、地域活性化に寄与する様々な取組をとおして、地域社会の持続的発展に貢献できる人材の育成をめざします**



**生徒の個性を活かした主体的な学びにより、このような人材を育成します**

##### ○総合学科

一人一人の進路希望にあわせた柔軟な学習を行うことをとおして、地域社会の持続的発展に貢献できる人材を育成します。



**このような学びを充実させます**

##### ○総合学科の特徴を最大限に活かし、一人一人の学びの幅を広げます

普通教科に加え、農業、商業、家庭・福祉の実践的な学びを展開します。教科等横断的な学びにより、学びの相乗効果を創出し、新たな価値を創造します。

##### ○自らの将来を考え、主体的に自分だけの時間割を作ります

主に2年次、3年次に、多彩な選択科目を組み合わせ、一人一人の興味関心、進路に応じて学ぶことができます。

一人一人に寄り添った丁寧な学びを進めます。

##### ○多様な意見に触れ成長できます

県外等からの生徒との対話的な学習や、地域との深い関わり、遠隔システムを活用した県内外の高等教育機関との連携といった多様なつながりの中で、様々な意見に触れ、多様性、協働性、寛容性を身に付けます。

##### ○地域資源を活かした魅力ある学びができます

地域資源を活かした体験的な学びをとおし、「社会で生きる力」を身に付けます。自然に触れたり、活用したり、地域特有の自然環境を存分に活かした学びを進めます。

ーその他、特色ある学び・教育活動ー

##### ○アウトドア

日野郡の恵まれた自然環境を活用し、ラフティング、カヌー、乗馬等を体験します。

##### ○ふれあい動物園

大山トム・ソーヤ牧場と連携し、体験的に学習します。愛玩動物等とのふれあい体験を行うとともに、小学生や高齢者との交流活動を企画・運営する学習活動を行います。

##### ○健康ゲーム

「健康ゲーム指導士」養成講座の開催、高齢者施設等での交流、レクリエーションについての探究学習を行います。

##### ○日野高ショップ

実習商品等を地域の方へ販売し、接客をとおして優しさや思いやりの心の育成を図ります。

##### ○郷土芸能

郷土の伝承芸能について、その歴史や継承していくことの大切さ、またその課題について探究的に学習するとともに、荒神神楽「八重垣能」の基本的演舞の習得をめざします。

##### ○たたら

地域と連携し、日野地域におけるたたら文化について学ぶとともに、高等教育機関等と連携し、たたら製鉄を科学的に学習します。また、たたらにより製鉄を行った素材を用いて創作活動を行います。

##### ○ミュージックセラピー

音楽の力をとおして、より良い生活をするために歌唱や楽器を用いた簡易伴奏を中心に学習します。地域における交流活動等で実践的な学びを展開することを想定しています。

##### ○レクリエーション

交流学习や実践的な実習、実技指導をとおして、子どもや高齢者との関わり方を学びます。また、集団で協力しながら交流活動を運営します。



**県立高校での学びの先には、このような進路があります**

##### ○進学 4年制大学、保育・福祉系短期大学、専門学校 等

##### ○就職 県内・県外企業（福祉系、宿泊業、食品系）、公務員 等

ーその他、資格取得等ー

就職、進学に向けてのアピールにつなげます。

・介護職員初任者研修修了資格 ・健康ゲーム指導士 ・ガス溶接・アーク溶接技能 ・フラワー装飾技能士

・小型車両系建設機械運転業務特別教育 ・小型ボイラー取扱資格 ・危険物取扱者 等



**学びの充実をはかるため、このような設備整備を検討します**

・現在、日野校舎、黒坂施設の2か所で学習活動を行っていますが、より効果的、効率的な学習活動を持続的に継続させるため、2校舎活用の在り方を検討していきます。

# 令和新時代の県立高等学校教育実施計画＜前期（令和9年4月1日実施分）＞①

平成元年（1989年）以降の本県中学校卒業生数は、平成元年3月の9,657人をピークに減少傾向が続いており、令和7年3月は4,892人とピーク時からおよそ半減しています。さらに、令和17年3月の中学校卒業生数は約800人少ない4,051人、その後も継続してさらなる減少が見込まれ、令和6年度に生まれた子どもたちが高校に入学する頃には3,000人程度となると推計されます。（令和7年5月1日時点推計）  
このような中においても、多様化する生徒の学習ニーズに応え、個々の能力を最大限伸ばすための教育効果を最も発揮できる特色ある高校であるため、再編を実施します。

## 高校教育改革の必要性

### ①社会情勢の変化

変化が激しく、予測不能なこれからの社会において、その変化に対応し、自ら課題を発見し、解決に向けて取り組む力を身に付ける学びへの変革が必要です。

### ②教育ニーズの多様化

多様化する生徒の学習ニーズや興味・関心に対応するため、教育活動の質の向上を図り、学びの幅を広げていくことが必要です。

### ③中学校卒業生数の減少

中学校卒業生数の減少が続く中で、高校においても、教育効果を最大限発揮できる適正な規模を維持しながら個々の能力を伸ばす、特色ある学校づくりを進めることが必要です。



自分の夢や目標の実現に向けた可能性を広げるために  
「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造します

### 方針1

生徒一人一人の資質・能力や可能性を最大限伸ばす学びを推進します。

#### めざす生徒像

- 課題を発見し、コミュニケーションをとおして協力しながら創造的に解決できる生徒
- デジタル改革が進むこれからの時代に柔軟に対応できる生徒
- 自己の学びを評価、点検、コントロールしながら学び続けることができる生徒
- 多様性、協働性、寛容性を身に付け、異なる考えや価値観を尊重し共有できる生徒

### 方針2

将来の地域を支える人材を育てるふるさとキャリア教育を推進します。

#### めざす生徒像

- ふるさと鳥取への思いを持ち、将来どこに住んでいても鳥取県を誇りに思いながら、自分の暮らす地域で活躍できる生徒
- 自立し、自分らしい生き方を実現できる生徒
- 魅力と活力あふれる「元気なふるさと鳥取」を創造し、支えていくことができる生徒

### 方針3

様々な現代的諸課題に対応し、鳥取県や日本、世界に貢献できる力を育成する学びを推進します。

#### めざす生徒像

- 持続可能な社会の創り手となるため、新たな価値観を創造できる生徒
- 豊かな国際感覚、人権感覚を備え、ダイバーシティに富んだ世の中で活躍できる生徒
- 鳥取県の豊かな資源や環境を活かし、地域や世界の持続的発展に寄与できる生徒

夢や目標をもって  
人生を切り拓く生徒の  
育成に向けて

## 基本計画＜前期＞の観点

前期は、将来の鳥取県を支える人材育成をさらに推進するため、専門学科を整理するとともに、より専門性を高度化します。  
あわせて、各地区において規模の適正化を図り、それぞれの高校の魅力化を推進します。

基本計画に示す方向性を実現させるため、各学校の教育課程や特色ある教育内容を「実施計画」として示します。  
 ※令和9年4月1日再編の以下の5校について実施計画を策定します。

令和9年4月1日  
 県立高校は新しく  
 なります



## 1 専門学科の整理・専門性の高度化

社会で求められる知識・技能が高度化する中において、地域産業の担い手となるスペシャリストの育成や、最新の技術に対応し、挑戦できる学びを推進していきます。  
 現在、東部地区及び西部地区において、分散して設置している工業学科について、施設・設備を集約し、教職員を集中することで、より高い専門的な学びの場へ再編します。

### ■鳥取湖陵高校の工業学科を、鳥取工業高校に再編します

学科を超えた学びの推進

専門性の高度化

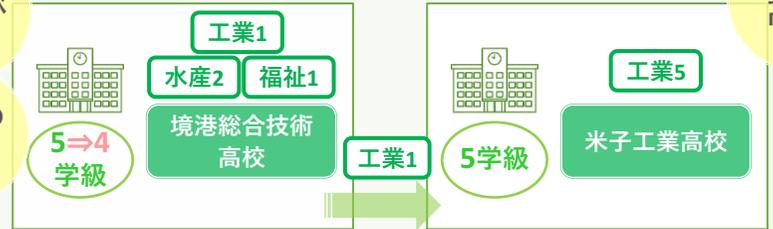


### ■境港総合技術高校の工業学科（電気電子科）を、米子工業高校に再編します ※機械科は境港総合技術高校に残ります

学科を超えた学びの推進

専門性の高度化

専門性の高度化



## 2 規模の適正化

日野郡の豊かな自然環境、地域資源を活かし、地元自治体等地域とのさらなる連携を進め、より地域に根差した学び、個別最適な深い学びの充実をめざします。また、遠隔システムを活用した学びを充実し、県内外の高校や高等教育機関等との連携も進めます。

### ■日野高校を、1学年1学級に再編します

小規模校における特色ある学びの推進



### 学科を超えた学びの推進

#### 総合選択制のメリットを推進していきます

異なる専門学科が複数ある学校において、自分が所属する学科の学習だけでなく、興味・関心に応じて学科の枠を超え、他の学科の学習をすることができます。

○他学科の科目を学習することで、幅広い知識と柔軟な発想を身に付けることが期待できます。

○他学科の生徒との関わりの中で、様々な知識、経験に触れ、切磋琢磨する環境となります。

現在は、鳥取湖陵高校、倉吉総合産業高校、境港総合技術高校の3校に設置しています。

専門性の  
高度化

鳥取工業高校

工業4

鳥取湖陵高校から  
工業（電子機械）再編

工業4



先端技術を活用した学びやSTEAM教育をとおして、優れた技術や創造性を身に付けます

機械

機械についての仕組みや部品設計、材料の加工方法などを学びます。

電気

発電から利用までの電気の基礎を学びます。

情報工学

コンピュータシステム、プログラミング技術、AI人工知能等について学びます。

建設工学  
(建築・土木)

まちづくりの知識・技術について学びます。

このような学びを充実させます

○入学後に自分に合った学科を選択します（くくり募集）

1年次は4つの科（機械、電気、情報、建設）の実習等をとおして工業について幅広く学習します。2年次からはそれぞれの科で将来の自分の進路に向けて専門性を高める学習ができます。

○鳥工版STEAM教育を推進します

教科等横断的な学びにより、多面的な見方・考え方を学び、「課題研究」を中心とした探究学習によって地域の課題に気付き、ものづくりをとおしてその解決に向けて取り組みます。

○最先端技術を習得する学びを推進します

生成AI、VRゴーグル、3Dプリンタ、モーションキャプチャやドローンなどの先端機器やデジタル技術を活用し、産業界や研究機関と連携し、工業の様々な課題解決に取り組みます。

機械

スーパー  
工業士

電気

地域の未来を創る

情報工学

土木

建築

卒業後はこんな進路があります

- 進学（4年制大学工学部、工業系短期大学等）
- 就職（機械・電気・電子・建設系企業、公務員等）
- 在学中に各種資格取得も可能です。（電気工事士、測量士補、建築施工管理技士補等）

専門性の  
高度化

米子工業高校

工業5

境港総合技術高校から  
工業（電気電子）再編

工業5



常識にとられない学びをとおして、新しいものを創り出す技術革新につなげます

機械

金属加工を中心としたものづくりや設計製図、機械制御について学びます。

電気

電気を安全に供給し有効活用する技術について学びます。

情報電子

プログラミング、IoTなど情報技術全般や電子回路などの電子技術について、幅広く学びます。

環境  
エネルギー

環境化学やエネルギー管理等を学びます。山陰地方で化学を専門に学ぶ唯一の科です。

建設  
(土木、建築)

都市基盤に関わる測量や設計、建築物に関わる設計、製図等について学びます。

このような学びを充実させます

○産業界や地域人材と連携した技術講習や資格指導を推進します

プロから実技指導を受けることで、技能レベルの向上や資格試験の合格を実現します。

○防災・減災に関するものづくりについて学びます

お湯で発電する装置の製作や太陽電池を利用した移動式充電装置の製作、泥水の浄化、ドローン実習等をとおして、専門の学びを防災・減災に活かします。

○充実した設備により最先端技術を習得する学びを推進します

最新のデジタル機材等の教育環境のもと、AIやデータサイエンスなどの技術を取り入れた授業を行います。

機械

電気

スーパー  
工業士

情報電子

多眼思考×創造力＝未来の常識  
次世代のものづくりに挑戦！

環境  
エネルギー

建築

土木

卒業後はこんな進路があります

- 進学（4年制大学工学部、工業系短期大学等）
- 就職（機械・電力・建設系企業、公務員等）
- 在学中に各種資格取得も可能です。（電気工事士、測量士補、建築施工管理技士補等）

学科を超えた学びの推進



鳥取湖陵高校

工業1

情報1

農業2

家庭1

鳥取工業高校に  
工業（電子機械）再編

情報1

農業2

家庭1

県内唯一の情報学科や、農業学科、家庭学科が融合した学科横断型の多様な学びを進めます

このような学びを充実させます

○全ての科で「情報Ⅰ」を履修し、最先端の情報教育を実践します  
情報活用能力を基盤とした各専門学科に必要な知識や技術を身に付けます。

○多様な進路に応じた学びが選択できます

他学科の科目を選択して学習することにより、一人一人の多様な進路実現を可能にします。幅広く専門性に触れることで新しい価値を生み出すことが可能となります。

○学科横断型の学びを行います

異なる学科の生徒が連携して学びます。学科横断型の課題研究をとおし、専門性を活かしつつ、より幅広い知識と柔軟な発想により学びに広がりを持たせます。

情報

コンピュータシステムの構築等、情報に関して幅広く学びます。

農業

植物の栽培管理や生産・加工・食品・流通に関して幅広く学びます。

家庭

衣食住、保育、福祉に関して幅広く学びます。

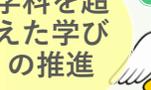


卒業後はこんな進路があります

- 進学（4年制大学農学部・情報系学部、保育・福祉系短期大学・専門学校等）
- 就職（造園系・福祉系・情報系企業、公務員等）
- 在学中に各種資格取得も可能です。（情報技術検定、技能検定（造園）、保育技術検定等）

専門性の高度化

学科を超えた学びの推進



境港総合技術高校

水産2

工業2

福祉1

米子工業高校に  
工業（電気電子）再編

水産2

工業1

福祉1

海洋練習船「若鳥丸」や自動車実習設備、介護実習設備といった県内唯一の教育環境のもと、地域の産業界におけるプロフェッショナルの育成をめざします

このような学びを充実させます

○国家資格の取得につなげます

山陰地方で唯一自動車整備士の資格が取得できます。また、介護福祉士、海技士など将来につながる資格を取得することで地域を支える人材育成につなげます。

○充実した施設・設備で学べます

海洋練習船若鳥丸、食品加工実習棟、自動車整備実習棟、介護実習室など充実した施設での学びをとおして実践力を養います。さらに海洋データ処理室の整備等も検討し、スマート教育の実施とともに、より地域に役立つ研究を推進します。

○多様な科目から興味のある学びを選択できます

ダイビング、自動車実習、保育音楽、境のさかななど地域資源を活かした地域に根差した学びを進めます。

水産

若鳥丸による航海実習や地元企業と連携した鮮魚や水産加工品販売などを行います。

工業

山陰地方で唯一、在学中に3級自動車整備士の受験資格を取得できます。

福祉

介護、保育等、様々な実習をとおして、福祉に関して学びます。



卒業後はこんな進路があります

- 進学（4年制海洋系大学、福祉系短期大学、専門学校等）
- 就職（水産・海運・福祉系企業、公務員等）
- 在学中に各種資格取得も可能です。（海技士、潜水士、自動車整備士、介護福祉士等）

小規模校  
における  
特色ある  
学びの推  
進

日野高校

総合2

△1学級

総合1

農業、普通  
商業、福祉



日野郡の豊かな自然環境、地域資源を活かし、地域活性化に寄与する取組を進めます

このような学びを充実させます

○一人一人の学びの幅を広げます

普通教科に加え、農業、商業、家庭・福祉の実践的な学びを展開します。  
教科等横断的な学び（商業×農業、農業×福祉）など、各科目の学びを他の科目の学びに活用することで、学びの相乗効果を創出し、新たな価値を創造します。

○自分だけの時間割を作ります

一人一人の興味関心、進路に応じて学ぶことができます。  
一人一人に寄り添った丁寧な学びを進めます。

○多様な意見に触れ成長できます

県外等からの生徒との対話的な学習や、地域との深い関わり、遠隔システムを活用した県内外とのつながりの中で、様々な意見に触れ、多様性、協働性、寛容性を身に付けます。

○地域資源を活かした魅力ある学びができます

地域資源を活かした体験的な学びにより、「社会で生きる力」を身に付けます。

郷土芸能  
たたら

荒神神楽の演舞の習得や  
たたらにより製鉄を行った  
素材を用いた創作活動  
を行います。

ミュージック  
セラピー

歌唱や楽器を用いた簡易 実習商品等を地域の方へ  
伴奏を中心に学習します。販売する学習します。

日野高ショップ

ふれあい動物園

愛玩動物等とのふれあい  
や、小学生や高齢者との  
交流活動を行います。

アウトドア

ラフティング、カヌー等  
を体験します。

レクリエーション  
健康ゲーム

eスポーツ等とおして子  
どもや高齢者と交流しま  
す。

「やさしさ」を強みに  
「思い」をカタチに

地域活性化

地域外か  
らの貢献

地域での  
活躍

地域内外  
からの  
情報発信

卒業後はこんな進路があります

- 進学（4年制大学、保育・福祉系短期大学、農業大学校等）
- 就職（福祉系企業、宿泊業、食品系企業、公務員等）
- 在学中に各種資格取得も可能です。  
（介護職員初任者研修資格、健康ゲーム指導士、危険物取扱者等）



参考資料

前期計画の方向性

各高校の特色化をより推進し、主に中山間地域の高校や地域における人材育成を図る専門高校についての整理、再編などを検討し、より専門性を高度化します。

- ①中学校卒業生数の減少を踏まえ、前期中に240人程度の募集定員減を目途に規模の適正化を図ることとし、原則、学校数は維持したまま、学科の集約や学級減による整理、再編を進めます。
- ②現基本方針における「小規模校の在り方に関する基準」を引き続き適用します。
- ③特に、中山間地域の高校は、地元自治体等地域との関わりを考慮したうえで、地域における高校の役割が大きい場合には、1学年あたり2学級以下の学校規模であっても小規模校として設置するとともに、次の取組を実施します。
  - ・地域外から生徒を呼び込むことのできる特色あるカリキュラム編成を検討します。
  - ・地元自治体等と協力した学生寮等住環境の整備を図ります。

本計画は、中学生の入試動向、中学校卒業生数の推移が現時点の推計どおりに進行するとともに、社会情勢や国・県の施策等に大きな変更がない場合のものであり、想定と異なった状況が発生した場合には計画を変更することも想定しています。



スケジュール

前期（令和8年度～令和12年度）

**R7.3.15  
基本計画公表**

- ＜公表内容＞
- ・工業学科再編（鳥取工業、鳥取湖陵、米子工業、境港総合技術）
  - ・日野高校再編
  - ・普通学科、総合学科、小規模校再編可能性学校名

**R8.2.16  
実施計画公表**

- ＜公表内容＞
- ・再編対象高校の具体的教育内容

**R9.4.1  
計画実施**

鳥取工業  
鳥取湖陵  
米子工業  
境港総合技術  
日野

**R10.10  
基本計画、  
実施計画  
(追加)公表**

- ＜公表内容＞
- ・普通学科、総合学科、小規模校再編対象学校名
  - ・再編対象高校の具体的教育内容

**R12.4.1  
追加分  
計画実施**

後期（令和13年度～令和17年度）

**R10.10  
基本計画公表**

- ＜公表内容＞
- ・再編対象学校名

**R12.3  
実施計画公表**

- ＜公表内容＞
- ・再編時期
  - ・再編対象高校の具体的教育内容

**R13.4～  
計画実施**

## 高等学校教育改革促進基金について

令和8年2月26日  
高等学校課

いわゆる高校無償化とあわせて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、国においては「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」を示し、各都道府県においては地域の実情に応じて「高校教育改革実行計画（仮称）」を策定・実行することとされていました。

このたび、文部科学省から「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」～」が公表されました。（令和8年2月13日）

あわせて、グランドデザインの確実な実装に向け、各都道府県における「高等学校教育改革実行計画」の策定や推進に先立ち、パイロットケースとして先導的拠点を創設するための事業についての公募が開始されました。（令和8年2月13日～）

これまで別途進めてきた高校再編に係る基本方針、基本計画にもとづき、基金事業を推進していきます。

### 1 高等学校教育改革促進基金の概要

#### (1) 背景（2040年の就業構造等を見据えた産業人材育成が必要）

- ・2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念される  
ところであり、産業イノベーション人材の育成が重要。
- ・少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。
- ・本県においては、平成元年以降の中学校卒業生数は平成元年3月の約9,600人をピークに減少傾向で、令和7年3月には約4,900人。今後の推計はさらに厳しく、令和6年度に産まれた子どもたちが高校に入学する頃には3,000人程度になると推計される。（令和7年5月1日時点推計）

このような中において、社会の変化や地元産業界のニーズを見定めながら、多様化する生徒の学習ニーズに応え、個々の能力を最大限伸ばすための特色ある高校である必要がある。

#### (2) 高等学校等教育改革促進事業概要

- ・高校教育改革に向け、教育委員会だけではなく、知事や関係部局、産業界、大学等高等教育機関、地域の関係者などと十分に連携・協働して改革を進めること。
- ・改革を先導する拠点において、教育委員会の関与の下で、校長がリーダーシップを発揮してスクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づく学校運営や教育活動の具体化、生徒の学びの成果・課題の把握と教育活動の改善への反映、公表の仕組みを構築するための検討体制を構築すること。

#### <パイロットケースとなる学校のイメージ>

専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャル ワーカーの育成等)	普通科改革を通じた 高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する 人材の育成等)	地理的アクセス ・多様な学びの確保
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校	文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校	学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

## ①基盤的支援経費

### 6,000万円/都道府県(定額)/3年分

<使途イメージ>

- ・関係機関が連携した会議開催経費(謝金、会場費等)
- ・教育委員会事務局における改革先導拠点の取組を支える体制を強化するための専門職員の配置経費
- ・3類型の取組開始前に準備等を実施するためのコーディネーターの配置経費
- ・拠点校の取組の準備、推進や成果の検証に要する経費 等

<スケジュール>

- ・交付内示 令和8年1月27日
- ・交付決定 令和8年3月上旬

## ②抜本的支援経費

### 62億円程度/都道府県/3年分

※事業採択に係る審査は、文部科学省が開催する外部有識者からなる審査委員会において行われる。

<拠点校の考え方>

- ・3類型全てについて先導拠点を設定し、その取組・成果を域内の他校に普及させること。
- ・各類型1校ずつ合計3拠点の提案を基本とする。  
一つの改革先導拠点で複数の類型の取組を実施することも可能とする。  
拠点校の設置目的や改革目標の内容が異なっていれば、最大4校までの提案を認める。

<対象経費>

国が示すグランドデザインを踏まえ、都道府県が改革促進事業計画を策定して実施する3類型に応じた専門性の高度化等の高等学校教育改革に係る経費

<スケジュール>

- ・公募開始 令和8年2月13日
- ・交付申請→採択発表  
第1回：令和8年2月27日→令和8年3月下旬頃  
第2回：令和8年3月31日→令和8年5月上旬頃  
第3回：令和8年5月15日→令和8年6月下旬頃  
※第3回までの採択結果を踏まえ、予算の範囲内で追加公募を行う可能性がある。

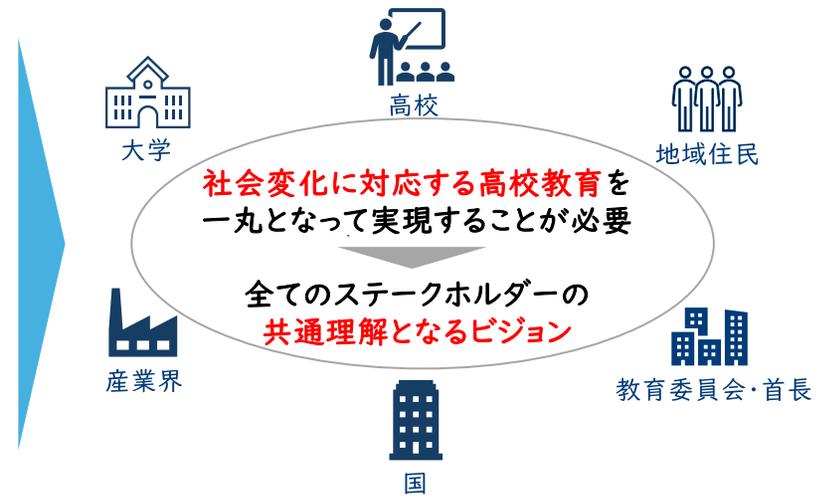
# 高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】

## ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

### 1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展  
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化  
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生  
(事務職は余剰、**AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足**)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない  
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**  
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく**、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



### 2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく  
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- 学びの在り方の転換 (New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
  - ✓ スクール・ミッション、**スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
  - ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- 最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)**
- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び**、STEAM教育、産業界と協働した**専門高校の学びの充実**  
➔ **理数・文系的素養**や**AIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍する**ロールモデル**を体感
  - ✓ 各高校の**特色化・魅力化**  
➔ 学科構成の見直し、**専門高校の機能強化・高度化**、**グローバル人材の育成**  
➔ **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)**
- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学び**を保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す  
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
  - ✓ **通信制高校の教育の質の確保・向上**
  - ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育**や**日本語指導**が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。  
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

### 3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

#### 国の 高校教育改革に関する グランドデザイン策定

#### 都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

#### 安定財源を確保した上で、 交付金等の新たな財政支援の 仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校(改革先導拠点)を創設。

#### 新しい学校のイメージや取組例

##### 専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)



###### (学校のイメージ)

地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

##### 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する人材の育成等)



###### (学校のイメージ)

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

##### 地理的アクセス・多様な学びの確保



###### (学校のイメージ)

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

###### (取組例)

- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

#### 2040年までに達成を目指す目標

##### 【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

##### 【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校:100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度

##### 【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の改訂（案）に係る  
パブリックコメントの実施結果について

令和8年2月26日  
図書館・障がい福祉課

鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の改訂にあたり、パブリックコメントを実施したので、その結果を報告します。

1 パブリックコメントについて

- (1) 募集期間 令和7年12月19日（金）から令和8年1月15日（木）まで
- (2) 周知方法 ・ 県立図書館、障がい福祉課及び県民課のホームページで公開  
・ 手話動画も掲載  
・ 県立図書館、県民課及び県の各総合事務所の窓口、各市町村の窓口にチラシを配架  
・ 新聞広告・ラジオ放送により広報
- (3) 意見数 77件（28名）  
（意見の内訳）改訂案への賛同・期待20件、支援に関する要望等17件、普及啓発の充実10件、学校での支援・普及8件、資料の充実5件、表記・その他17件
- (4) 主な意見と対応方針  
下表を含め、計画に反映した意見が21件、既に改訂（案）に盛り込んでいる対応済みの意見が26件あった。

意見概要	対応方針
【計画の対象者】 「施策の方向性と内容」は、対象を明確化して施策にどう反映されたかわかりにくいように思う。	<u>計画案に盛り込む</u> 施策と主な対象の関係を分かりやすくするなど表現を工夫します。
【読書環境の整備】 触る絵本などに加え、本に限らず様々な媒体を通して読書に親しむ環境が整備されることを期待する。	<u>計画案に盛り込み済</u> 様々なニーズに応えられる資料・支援方法の充実等の読書環境の整備について計画に記載しています。
【学校図書館への研修】 先進事例やアクセシブルな書籍の情報、職員向け研修を公共図書館だけでなく、学校図書館へも行ってほしい。	<u>計画案に盛り込む</u> 先進事例やアクセシブルな書籍の情報、職員向け研修は、学校図書館にも必要であるため計画に盛り込みます。
【学校図書館との連携】 読むことに困難がある児童生徒のために、学校全体で読書バリアフリーに取り組む体制が必要。管理職が中心となって取り組めるよう、特別支援教育担当課と学校教育担当課が連携することが重要。	<u>計画案に盛り込む</u> 関係機関が連携して組織的に取り組むことは、読むことに困難がある児童生徒の支援に必要と考えますので、計画に盛り込みます。
【相談体制の整備】 障がい・特性にあった読書支援機器について相談や調整ができる人材の養成と相談できる場所があるとよい。	<u>計画案に盛り込み済</u> 図書館職員、学校図書館関係者等を対象とした研修を行い、身近な図書館で適切な支援を受けられるよう人材育成を行うことを計画に盛り込み済みです。
【若い人たちへの啓発】 若い人たちへの啓発は重要。特別支援学校や特別支援学級だけでなく広く様々なコンテンツに触れる機会があると関心が高まると思う。	<u>計画案に盛り込み済</u> 若いときから様々な読書の方法、読書バリアフリーに資する資料等に触れ、製作等を体験することで将来にわたって自分に合った方法により読書を行うことが期待されることから、若い頃からのアクセシブルな書籍等の作成や利用体験について計画に記載しています。

## 2 計画改訂（案）の概要

### (1) 計画の概要

#### ア 計画期間

5年間（令和8年度から令和12年度まで）

#### イ 計画の位置付け

読書バリアフリー法第8条第1項の規定に基づき、鳥取県における視覚障がい者等の読書環境の整備の推進計画を定めるもの。

### (2) 主な改訂内容

#### ア 目標の新設

「誰でも生涯にわたって読書を通じて文字・活字文化の恩恵を享受できるユニバーサルな（誰にとっても不自由がない）読書環境を実現する」という目指す姿を明記する。

#### イ 基本的な方針の見直し

当事者もそれ以外の者も、先ず読書バリアフリーについて知る必要があることを踏まえ、基本的な方針に「普及・啓発」を明記し、強調する。

基本的な方針	重点的に取り組む内容
① アクセシブルな書籍等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立図書館で新たなオーディオブックの導入、アクセシブルな電子書籍の充実</li> <li>指標：県立図書館の電子書籍のタイトル数（うちオーディオブックのタイトル数）（点）</li> <li>[現状（令和6年度末）0 → 目標（令和12年度末）1,000]</li> </ul>
②障がいの有無、年齢に関係なく誰もが自分にあった書籍等にアクセスできるサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館や市町村立図書館関係者を対象とした研修の実施。</li> <li>・学校図書館等でのアクセシブルな書籍等の展示・使用体験の実施</li> <li>指標：県立図書館が主催する障がい者サービス・読書バリアフリーに関する研修・講座等の年間参加人数（人）</li> <li>[現状（令和6年度末）102 → 目標（令和12年度末）150]</li> </ul>
③すべての人が読書を楽しめる環境の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村や福祉・医療・学校・書店等と連携した啓発</li> <li>・若者を含め、広く当事者以外も対象にした啓発活動の実施</li> <li>指標：県立図書館の読書バリアフリーに関する各メディアでの発信回数</li> <li>[現状（令和6年度末）0 → 目標（令和12年度末）月2回以上]</li> </ul>

#### ウ 対象の明確化

「視覚障がい者等」としている計画対象を、「視覚障がい者等、高齢者、知的障がい者など紙に印刷された一般的な本での読書に困難を感じている全ての人」へ明確化する。

## 3 今後の予定

- 令和8年2～3月 鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会・定例教育委員会へ最終改訂案について報告
- 令和8年4月 次期計画の施行